

# 岳

創刊号:平成21年12月



2009.5.10 犬ヶ岳 1130.8m

## お知らせ

平成21年12月より、隔月に楽山会だより『岳(がく)』を発行します。  
『岳』には、楽山会で実施する「登山プラン」や「山行報告」を掲載するほか、最新の登山情報を発信してまいります。

## もくじ

- p2 登山プラン
- p3 山行報告
- p4 登山情報

Trekking Infomation 楽山会

発行元 : アウトドアショップ FREEDOM URL <http://www.fredom99.jp> E-mail [info@freedom99.jp](mailto:info@freedom99.jp)  
〒857-0059 佐世保市元町 3-8 TEL 0956-24-8224 FAX 0956-24-8233

作成者 : 登山教室【モルゲン】末永 直樹 <http://shizennnonakade.com/gaido/index.htm>  
〒857-0134 佐世保市瀬戸越 2丁目 18-14 電話(FAX) 0956-49-4043 携帯 090-5474-4539

## 登山プラン

集合場所	佐世保シーカヤックセンター	アウトドアショップ FREEDOM	三川内ICまでの国道沿いで合流可能です。申込時にご相談ください。
集合時間	6:00	6:05	
登山終了後に、温泉へ入浴いたしますので着替一式をご持参ください。			

月	日	曜日	山名	地域	特徴	備考
1	17	日	由布岳 1583m	大分	霧氷鑑賞	冬山装備が必要となります。 下記の説明会へご参加ください。 <b>『冬山装備説明会』</b> <b>日時: 1月7日(木)19:00~20:30</b> <b>場所: アウトドアショップ FREEDOM</b> 注) 安全管理のため、装備が不十分な方は、参加をご遠慮いただく場合があります。
2	14	日	指山 1358m	九重	スノー トレッキング	三俣山の裾野に広がる山で、長者原からお椀をふせたような形に見えます。他の1700m級の九重連山からは、見劣りする感がありますが、北斜面に位置している関係で、標高の割には雪が多く、スノートレッキングにはもってこいの山です。
3	7	日	仰烏帽子山 1301m	熊本	福寿草 鑑賞	福寿草は、春を告げる花の代表で、3-4cmの黄色い花を咲かせます。九州では、仰烏帽子山と上福根山に群生地があります。

注) 楽山会主催の登山は、全て初心者向けの登山ですが、特に冬季の登山の場合は、十分な準備(体調管理・装備)で登山に望んでいただきますようお願い申し上げます。

集合場所は下記マップの『佐世保シーカヤックセンター』へ



## 山行報告

【2009.4.5 石割岳 941m 福岡】 温泉:星野温泉きらら



山腹の山桜は開花していませんでしたが、ミツマタ、アセビ、こぶしなどの花を見る事ができました。  
【2009.5.10 犬ヶ岳 1130m 九州百名山 福岡・大分】 温泉:ト仙の郷



笈吊(おいづる)峠から犬ヶ岳の稜線には、多くのツクシシャクナゲ(国指定天然記念物)を見ることができました。  
【2009.7.12 花牟礼山 1170m 九州百名山 大分】 温泉:筋湯



初夏を感じさせるような晴天でした。「ヒゴダイ」が楽しみな花牟礼山でしたが、時期が早かったようです。  
【2009.8.30 星生山 1762m 大分】 温泉:九酔峡温泉



登山口でも標高 1000mを超えている高所なので、涼しくてさわやかな一日を過ごす事ができました。

貫山(10月)と12月(俵山)は、2号(2010年2月発行)でご報告いたします。

中級山岳と呼ばれる九重連山などの 1700m級の山々においても、一冬に何回かは寒波が南下し、氷点下15 近くまで下がる事があります。寒波の南下と低気圧の発生が重なった場合は、強風と降雪を伴い、九州の山々でも、厳しい条件となります。

雨が雪に変わるの目安 地上(海拔 0m)の気温 3 標高 1500mの気温 - 6

2009.12.19(土)の【実況天気図】と【衛星画像】



東～西日本にかけても、平年を3 前後下回り、沿岸部でも氷点下の地点があった。

12月19日の午後、登山教室【モルゲン】主催で、高千穂峰 1574mに登っていました。天気は、山には一部ガスがかかってはいましたが、晴天でときおりすばらしい展望がありました。しかし、風は強く下山時には、風速20mを超える強風がありました。気温は、氷点下ですので、一時期の体感気温は、氷点下30 近くあったと思われます。



写真からは、想像もつきませんが、九州の山としては、かなり厳しい条件であったと感じています。このような条件下においても、軽装備での登山者を見かけました。歩行スピードも早く、しっかりとした足取りでしたが、冬山本来の厳しさを理解していたら、あのような装備で登ることはできないと感じていました。

冬山装備のワンポイント

- ・ 末端の冷え対策(手足の指・耳など)
  - ・ 風対策
  - ・ 自らの汗による濡れ対策
  - ・ 滑り対策
- 登山靴・スパッツ・オーバー手袋・中間手袋・インナー手袋・帽子
  - 透湿性のある雨具・目出帽
  - 登山専用の下着
  - アイゼン・ストック